医師・看護師・薬剤師の方へ

この方は現在、フェニルケトン尿症の治療のため、パリンジック®(ペグバリアーゼ)皮下注を使用しています。

- パリンジック®の投与により、アナフィラキシーなどの重度の過敏症反応が発現することがあります。
- 患者さんとご家族には、アドレナリン注射剤(エピペン®)を常に携帯し、アナフィラキシーの発現時には自己注射していただけるよう指導しています。

かかりつけ医の先生へ

製品の情報は、Webサイトでご確認いただけます。
https://www.bmrn.co.jp/physicians/palynziq

BIOMARIN®

2023年5月作成
APAC-PAL-00037

RMP

私は、パリンジック®皮下注による治療を受けています。

>>> 緊急連絡先 <<<

パリンジック®の処方医の施設	かかりつけ医(処方医の施設が遠方の場合の緊急連絡先)
医療機関名	医療機関名
主　治　医	主　治　医
電話番号	電話番号

本人氏名　　家族氏名　　(続柄　)

電話番号　　電話番号

パリンジック®投与中の患者さんとご家族へ

- パリンジック®を投与している期間は、このカードを常に携帯してください。
- パリンジック®の処方医の施設以外の医療機関を受診した際には、このカードを提示してください。
- 薬局でパリンジック®を受け取る際には、このカードを提示してください。
- パリンジック®による治療中に、重度のアレルギー反応(アナフィラキシー)が起こる可能性があります。下ページのような症状が認められた場合は、すぐにエピペン®の自己注射を行い、救急車を呼び(119番)、最寄りの医療機関を受診してください。
- 携帯しているエピペン®が使用期限内であることを定期的に確認し、エピペン®の自己注射の方法等を確認したい場合は医師等に相談してください。

下記の症状が1つでも現れたら、すぐにエピペン®の自己注射を行い、救急車を呼び、最寄りの医療機関を受診してください。

消化器の症状

- 繰り返し吐き続ける
- 持続する強い(がまんできない)おなかの痛み

呼吸器の症状

- のどや胸が締め付けられる
- 声がかすれる
- 犬が吠えるような咳
- 持続する強い咳込み
- ゼーゼーする呼吸
- 息がしにくい

全身の症状

- 唇や爪が青白い
- 脈を触れにくい・不規則
- 意識がもうろうとしている
- ぐったりしている
- 尿や便を漏らす

日本小児アレルギー学会アナフィラキシー対応ワーキンググループ：一般向けエピペン®の適応より引用
https://www.jspaci.jp/gcontents/epipen/(2023年3月参照)